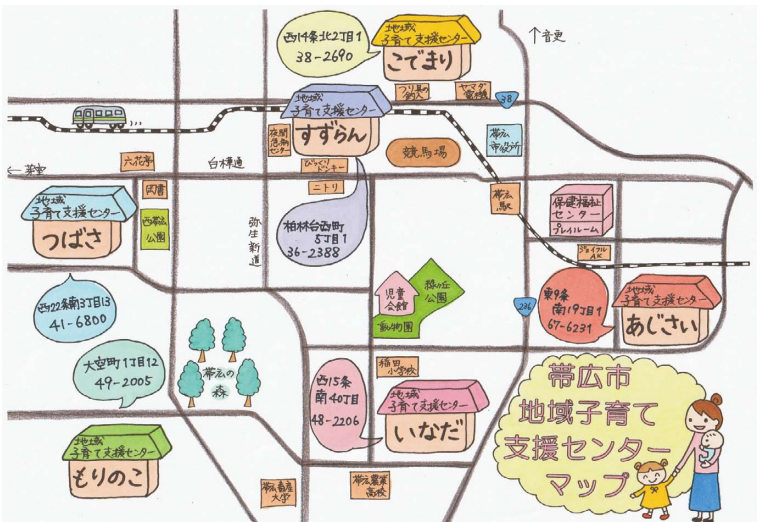


地域子育て支援センターに遊びに行こう

問い合わせ 子育て支援課（東8南13、保健福祉センター内、☎25・9700）

各支援センターの利用時は感染症拡大防止にご協力ください

- ・37.5度以上発熱のある場合や、風邪の症状（せき・鼻水・のどの痛みなど）がある場合は利用できません。
- ・保護者は、マスクの着用をお願いします。
- ・各支援センターの広さに合わせて、最大同時利用人数を設定しています。
- ・感染症予防のために休所する場合があります。その場合は、「市ホームページ」や「すこやかネット」などでお知らせします。




つばさ	西22南3	☎41・6800	いなだ	西15南40	☎48・2206
こでまり	西14北2	☎38・2690	すずらん	柏林台西町5	☎36・2388
もりのこ	大空町1	☎49・2005	あじさい	東9南19	☎67・6231

市内には6カ所の地域子育て支援センターがあります。各支援センターでは、0才から就学前のお子さんと保護者、妊娠中の人を対象に、利用者同士の交流や情報交換ができるいろいろな種類の「広場」を開催しています。

■遊びの広場


申し込み不要の広場です。自由に参加し、遊ぶことができ、保護者同士が子育てに関する悩みを共感、共有し合えます。各支援センターごとに開催している広場もあるので、詳細は子育てナビ・おびひろをご覧ください。



▲子育てナビ


■ぴよぴよ広場・マタニティ広場

第1子で1歳未満の子どもと保護者、第1子妊娠中の人を対象の広場です。赤ちゃん同士で一緒に遊んだり、先輩ママの話聞くこともできます。




■少人数制の広場

集団が苦手な子どもや、ゆっくり悩みを相談したい保護者が対象です。（予約制）



■電話相談 月～金曜日、9時～17時


広場での子育て相談の他に、広場が休みの場合や行くことができない時でも、電話で各支援センターに相談することができます。気軽にご利用ください。



利用者の声を聞いてみました!

吉留 千尋さん
悠翔くん

地元が帯広ではない私にとって、子育て支援センターは孤独になりがちな育児を楽しくしてくれる場所です。先生たちともいろいろな話ができ、同じ年頃のお子さんも多いので子どもも楽しそうです。他の子と関わる事で、子どもの成長を日々感じることができます。お友達も来て、充実した日々を過ごせています。



帯広市すこやかネット

「すこやかネット」では、各支援センターを動画で紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

市公式LINEからもアクセスできます!

トーク画面のメニューボタンをタップすると「すこやかネット」にリンクします。

新型コロナウイルス感染症について

市公式LINE登録はこちら





認知症に関する情報をお届けします!

ロバ隊長便り

問い合わせ 地域福祉課（市庁舎3階、☎65・4113）


今月のテーマ 『子どもたちは、頼れるサポーター』

今年度から新たに始まった「おびひろ市民学」の取り組みの一つとして、市内の全小・中学校（学年限定）を対象に、認知症サポーター養成講座を行います。今回は「栄小学校」にロバ隊長と一緒に邪魔しました!




地域福祉課 森倉さん

こんにちは! 僕「ロバ隊長」です。認知症サポーターキャラバンのマスコット。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの先頭を歩きます。




6年生の皆さんが受講してくれたよ! 認知症の接し方について、説明だけでなくクイズや劇、動画を交えて伝えたよ! 劇には、担任の先生も出演して、高齢者役を熱演してくれたので、みんな楽しく学べたんじゃないかな? 帯広の子どもたちが認知症サポーターになってくれるのは、とても心強いね!




認知症サポーターとは

認知症に対する正しい知識と理解を身に付けた、認知症の人やその家族の応援者のことです。サポーターが増えることで、認知症の人が地域で安心して暮らすための支えとなります。一度の受講で、誰でも認知症サポーターになることができますので、気軽に受講してみてください。（9月の講座は、15頁参照）

もっと認知症のことを学びたい人は・・・

9月は世界アルツハイマー月間です。図書館では、8月29日(土)～9月29日(木)まで認知症の図書を集めた特設コーナーを設置するので、ぜひお立ち寄りください。



OBHIRO CAMERA REPORT

オビヒロカメラレポート

よるの動物園

夜行性動物の生態を知ってもらおうと、毎年夏に開催している人気イベント「よるの動物園」。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、飼育員によるスポットガイドや遊具の運行は残念ながら中止しましたが、学生や家族連れなどでにぎわっていました。ゴマフアザラシのほか、アメリカビーバーやアムールトラなど、昼間の様子とは一味違う動物たちを観察したり、夜の園内の雰囲気を楽しむ人の姿が見られました。（7月26日、動物園）



ヒロシマ・ナガサキ原爆展

帯広市では、安心して平和に暮らせる社会を実現するため、平和推進事業に取り組んでおり、その取り組みの一つとして、原爆被害の実相と平和の大切さを伝えるポスター展を開催しました。今年は、広島より取り寄せた原爆の恐ろしさを訴える写真ポスター20点を掲示していました。戦後75年の今年、平和の大切さや命の尊さについて、皆さんも改めて考えてみてはいかがでしょうか。（7月30日、市民活動交流センター）

